

CBC NEWS LETTER

Vol.7, No.1, Oct.2006



国立大学法人
小樽商科大学ビジネス創造センター

ニュースレター [Vol.7, No.1]

I N D E X

1. センター長就任のご挨拶
2. 新連携支援制度について
3. 地域活性化セミナーを開催
4. CBC主要日誌
5. 投稿案内

1

センター長就任のご挨拶

CBCセンター長 教授 海老名 誠

私は平成18年4月1日に下川前センター長の後を受け、CBCセンター長になりました。既に本学に着任し2年が経過しておりますが、改めてご挨拶をさせていただきます。

現在、日本のほぼ全ての国立大学に「地域共同研究センター」と呼ばれるセンターが設置され、産学官の活動が行われています。CBCも「地域共同研究センター」の一つですが、本学ではビジネス創造センター(Center for Business Creation: CBC)と呼んでいます。CBCには、地域で研究をするに留まらず、自ら新産業や新ビジネスを創造して行くと言う役割が期待されています。

CBCの重要な活動領域の一つは、大学発ベンチャーに関する活動です。CBCは、平成12年に国立大学として最初の大学発ベンチャー企業「ジェネティックラボ社」を北海道大学医学研究科の教員と共同で設立しました。その後も、北海道内外の大学と共同で10社を超える大学発ベンチャーを設立し、大学発ベンチャーに関するセミナーや研究発表も活発に行ってきました。現在まで、日本には1500社を超える大学発ベンチャー企業が誕生しました。しかし、未だその多くは黒字を確保することが出来ません。やはり、如何に素晴らしい技術シーズがあっても、それを事業化し採算ベースに乗せていく事は本当に難しい事です。本学は、昨年10月に公立札幌医科大学・私立北海道東海大学と、それぞれ「文理融合型連携協力に関する大学間協定」を締結しました。両大学が保有する医学・理工学シーズを、本学が保有する商学・経済学的知見で支援し、事業化を目指すものです。

CBCは地域貢献の推進にも力を入れています。大学の持つ知見を広く社会に還元し、地域経済の活性化に役立てることも、大学の重要な使命の一つです。CBCでは、「地域活性化セミナー」を小樽(平成18年3月)と札幌(平成18年9月)で開催しました。地元経済が再び活力を取り戻し、元気な街づくりが可能となるように産学官を挙げて様々なプロジェクトに取り組んでいます。CBCとしては、大学でなければ出来ない市場調査・需要予測・アンケート実施/分析などを受け持っています。今後とも、地元北海道のビジネスが日本・アジアのマーケットに拡大できる様、お手伝いをして参ります。

各位におかれましては、何卒CBCに対する一層のご理解とご活用を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成18年10月



2

新連携支援制度について

中小企業診断士 吉本 平史 (CBC学外協力スタッフ)

私は、平成18年3月に小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻(MBA)を修了したOBS(小樽商科大学ビジネススクール)1期生です。現在、中小企業診断士として独立開業し、北海道に根ざした活動を中心に仕事をさせていただいております。特にその中で、北海道経済の発展に関わる活動をさせていただいている、独立行政法人 中小企業基盤整備機構 新連携支援北海道地域戦略会議事務局での仕事を中心にしてお話をさせていただきたいと思っております。

現在、新連携支援事務局でサブマネージャーとして新連携支援制度認定を目指す中小企業の皆様に対して、事業計画立案のサポート、認定後の事業計画実現のためのフォローアップを行っております。

ここで新連携について簡単に説明させていただきます。

新連携(中小企業新事業活動促進法では「異分野連携新事業分野開拓」とは、その行う事業の分野を異にする事業者が有機的に連携し、その経営資源(設備、技術、個人の有する知識及び技能その他の事業活動に活用される資源)を有効に組み合わせ、新事業活動を行うことにより新たな事業分野の開拓を図ることをいいますが、簡単に言えば、異なる事業を行う中小企業が2社以上連携して新しい事業にチャレンジすることといえます。

新連携支援制度は、平成17年度からスタートし、現在2年目を迎えた制度で、異業種連携・産学官連携により新事業にチャレンジする中小企業の技術開発から販路開拓までを3~5年間一貫して支援する制度です。

本制度では、北海道経済産業局が、①連携性、②新事業性、③市場性等に優れている新連携計画を認定し、政府系金融機関の低利融資、補助金、設備投資減税等の各種支援メニューによりビジネスの拡大を支援しています。現在、北海道で18社が認定を受け、着実に新規ビジネスの基盤ができてきています。

ここで認定企業の中で、私に関わった企業の話させていただきます。

(株)ケイジーエンジニアリングは、建設コンサルタント業を営む札幌市にある企業で、「簡易・高密度ハープマットによる景観・緑化・無農薬農作物栽培の推進」を事業計画とする新連携支援制度の認定を受けました。本業とは関連しない新規事業を、外構施工会社、花制作会社との連携で事業計画を作成し、発売後、3ヶ月で既に4000マット(30cm×180cm)の販売を行っています。毎月実施されるプロジェクト会議は、連携企業の経営者を含む15名のメンバーが参加して行われます。この事業にかかる意気込みが感じられ、皆が事業成功に向けて本気で取り組んでおり、熱い思いに満ちあふれています。

この事業を担当させていただいて感じたことは、中小企業の皆さんも企業発展に向けて、日々知恵を出し、汗をかき全力で取り組んでおられるということと、一人の従業員の思いやアイデアから新規ビジネスは生まれ、事業になりうるということです。

北海道経済は、いまだ完全に回復したとはいえませんが、北海道に根ざした中小企業の発展により、今後大いに牽引されるものと思っております。

北海道経済産業局、北海道、札幌市などでは、多くの補助金制度や支援制度を準備しています。新連携支援制度について関心のある方は、詳細についてご説明させていただきますので、是非ご一報ください。(新連携支援制度については<http://www.smrj.go.jp/shinrenkei/>を参照してください。) 今後も北海道経済発展のために少しでもお役に立てるよう、全力で邁進したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



3

地域活性化セミナーを開催

9月29日(金)に紀伊國屋書店札幌本店前のオープンスペースを会場に地域活性化セミナーを開催しました。当日はセミナー開始に先立って小樽のガラス工芸品と藍織物の特別展示も行いました。事前申込みなしのオープンなセミナーでしたが、当日は80名あまりの参加者がありました。

本セミナーの開催は、小樽商大と芸術工房、大学のセンセイと工芸作家、この何のつながりもないように見える不思議な組み合わせから、地域を元気にするしかけが生まれ始めていることが契機になっています。大学が地域のためにできること、市民や地元企業が大学を上手に活用する方法について、小樽を拠点にして世界的に活躍する二人の工芸作家をお招きして、セミナー参加者とともに考えることを目的として開催しました。



セミナー前半は工芸作家と本学教員による講演があり、後半では会場からの質問を受ける形でパネルディスカッションが進められました。また、セミナー開催前にアンケート調査を行い、小樽や本学、小樽のガラス工芸・染織造形について思いこみや誤解があることがわかりました。しかし、セミナー終了後に行いました「セミナー参加者アンケート」では、多くの参加者から「とても満足」「満足」と回答していただき、また大学と地域との連携について貴重なご意見もいただきました。講演会方式の従来のセミナーだけ

でなく今回のようなオープンなセミナーも随時開催し、今後とも地域との連携を深め地域の活性化に役立つ「ダイガク」であるよう活動を続けていきます。

当日のプログラムは以下のようです。

【プログラム】午後6:00～

主催者挨拶 山本 眞樹夫(小樽商科大学副学長・地域貢献推進委員長)

第一部 講演

・小樽ガラス工芸

「OTARU ガラス工芸品の世界ブランド化プロジェクト」

海老名 誠(小樽商科大学教授・ビジネス創造センター長)

「小樽ガラス工芸品の魅力」

安井 顕太(有限会社 ケーズブローイング代表取締役)

・染織造形

「北海道の染料植物と環境を考えた染織法」

角 寿子(北の藍工房 主宰)

片岡 正光(小樽商科大学教授・ビジネス創造センター運営委員)

第二部 パネルディスカッション

・「大学は本当に役に立つ？」

モデレータ 大津 晶(小樽商科大学助教授・ビジネス創造センター副センター長)

パネリスト 安井 顕太、角 寿子、海老名 誠、片岡 正光

閉会挨拶 海老名 誠(小樽商科大学教授・ビジネス創造センター長)

CBC主要日誌

CBC運営委員会		主任会議
第1回 4月27日(木)	審議: 1.平成18年度予算執行計画(案)について 報告: 4件 4月10日(月)	4月10日(月)
第2回 5月22日(月)	審議: 1.平成18年度知的財産活用調査分析事業の受入れについて 2.平成19年度概算要求書【特別教育研究経費】の提出について 報告: 4件	5月 9日(火)
第3回 5月24日(水)	審議: 1.平成18年5月26日提出期限の「平成19年度概算要求書」の原案(持ち回り)	
第4回 6月29日(木)	審議: 1.平成18年度学生懸賞論文の実施内容等の変更方針について 報告: 10件	6月 5日(月)
第5回 7月 6日(木)	審議: 1.平成18年度学生懸賞論文の実施内容等の変更方針について(修正)(持ち回り)	
第6回 7月24日(月)	審議: なし 報告: 5件	7月 3日(月) 7月 6日(木)
第7回 9月12日(木)	審議: 1.平成18年度小樽商科大学地域活性化セミナーについて (持ち回り)	8月 3日(木)

投稿案内

ニュースレターはCBCに関する情報をタイムリーに開示するだけでなく、CBC関係者相互の情報交換の場でもあります。CBC関係各位の積極的な投稿をお待ちしています。

投稿、問い合わせはEメールにてお願いします。投稿は随時受け付けておりますが、投稿原稿の採否、掲載号の決定はCBC情報資料部に御一任ください。

○ 投稿先 小樽商科大学ビジネス創造センター情報資料部(奥田和重)

Eメール: okuda@res.otaru-uc.ac.jp

編集後記

このたび小樽商科大学ビジネス創造センター(CBC)のニュースレターVol.7, No.1を発行することができました。これも関係各機関・各位のご協力の賜であります。より充実したニュースレターにするために、今後ともみなさまのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(情報資料部)

国立大学法人

小樽商科大学ビジネス創造センター(CBC)

〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号

事務室 TEL 0134-27-5290

FAX 0134-27-5293

メールアドレス cbcjimu@office.otaru-uc.ac.jp

ホームページ <http://www.otaru-uc.ac.jp/cbc/>